

令和3年度 第4回 堺市自殺対策連絡懇話会 議事録

1 日 時 令和4年2月17日（木）午後2時～午後3時

2 場 所 ZOOMによるオンラインにて開催

3 委 員

出席者 秋元委員・佐藤委員・志村委員・田邊委員・中村委員・梨谷委員・平野委員・
米花委員・山田委員

書面聴取者 飯田委員・恵口委員・葛西委員・隈元委員

4 関係者

堺市健康部 こころの健康センター所長 井川

教育委員会事務局 学校教育部部长 江戸

消防局次長 兼 救急部部长 川西

5 事務局

堺市健康部 こころの健康センター 片山

堺市健康部 精神保健課 前原・松尾・村上・肥塚・川原

6 会議次第

- (1) 開会……………2
- (2) 委員及び事務局職員紹介 事前送付資料1……………2
- (3) 案件・報告
 - ①「堺市自殺対策推進計画（第3次）案」について 事前送付資料3,4,5,6,7 ……2
 - ②「令和3年度自殺対策の取り組み状況」について 事前送付資料8……………6
 - ③その他……………8

7 議事の内容

(1) 開会

(2) 委員及び事務局職員紹介

(3) 案件・報告

①「堺市自殺対策推進計画（第3次）案」について（事前送付資料3,4,5,6,7）

【事務局】

・今回提示している計画案、概要版案、別冊案は、第3回懇話会で皆様からいただいたご意見と、昨年12月16日から今年1月18日まで実施したパブリックコメントと、庁内からの意見を元に作成した最終案となっている。

（事務局より資料3、4、5、6、7を説明）

【梨谷座長】

・今後の取り組みやその方法等についてご意見をいただきたい。
・事務局より、今後の取り組みや方法等について具体的にどのような意見を聞きたいのか、説明を願いたい。

【事務局】

・誤字脱字や表現方法などについて、お気づきの点をお聞かせ願いたい。
・また、施策のなかで、特に自殺対策は、当課やこころの健康センターだけでは難しい。どのようなところと連携すればよいか、今後重要になる対策、皆様が従事されているなかでの自殺対策などについて、コロナ禍での生活の変化なども含めて、実態や行政に求める施策についてご意見をいただきたい。

委員からの意見・質疑

【米花委員】

・「学校における取組体制の充実」についてである。がん教育は堺市の病院から看護師が小学校に行き実施しているとよく聞く。小学校や学校での取組で、スクールソーシャルワーカー活用事業やいじめ・暴力防止などが記載されているが、メンタルヘルスに関する教育はどうなっているか。

【関係者（学校教育部）】

・学校によって対象となる学年は異なるが、助産師や医療関係者による、いのちの大切さの授業は行っている。

【梨谷座長】

- ・道徳の授業で行う内容か。

【関係者（学校教育部）】

- ・学校規模によってクラス、学年、やり方が異なっており、道徳教育でカウントするところもあれば、総合的な授業で行うところもある。人数が少ないところでは、集会の形で、場合によっては保護者も呼んで行うところもあると聞いている。

【米花委員】

- ・一昨年は10代の自殺企図未遂の子どもが多かったという印象があったが、昨年は少し減少したように思う。自分の中で何が起ったのか、何が問題なのかも分からないという状況の中で、子どもたちが自殺企図の行動を選んでしまうという状況が起っていることが気になっている。学校の中でがん教育などの様々な教育が始まっていることを知ったので、子どもたちの心がどのように育っていくのか、人の心はどのようなものかを、皆で共有できる場もあるとよいと思う。そのような場があることを教えていただけてよかった。今後もよろしく願いしたい。

【梨谷座長】

- ・私も普段、臨床心理士として子どものカウンセリングも行うが、子どもは、いのちを大切に思っていないから自殺するということではない。子どもはいのちの大切さという次元を超えて、「今、辛いのを何とかしたい」ということで、どうにかするための方法として、自殺や自傷行為しか見つけられないところに、問題があるのだと思う。SOSを適切に出せるような方法を身につけてもらうことが、学校教育の中でできることも大事なのではと思う。

【佐藤委員】

- ・いのちの大切さを伝えることについては落とし穴もある。私たちが関わる子どもは、「どうせ自分なんか」と思っている子どもが多い。そのような子どもに「いのちは大切」と伝えても、「皆には大切なんだ」と分けてとらえてしまう。できれば、「いのち」と「あなた」をくっつけて、「あなたが大切」という伝え方の授業をしていただけるとありがたい。
- ・学校で行う授業を見せてもらうが、その際に「生まれてきてよかった」と言われていない子どもたちが、いのちの大切さを聞くのは辛いと思う。そのことを教師に伝えても、「そこまでやっていると授業ができない」と言われてしまうことがあり、残念に思う。教える側もケアするような、教職員向けの研修もあればよいと思う。
- ・最近、学校で自傷行為の話をしたことがあった。行為そのものに目が行きがちだが、背景をどう見るかなど、教職員向けにもあればよいと思う。

【梨谷座長】

- ・教職員向けの自殺予防の研修を行っている自治体はけっこうあると思うが、堺市は行っているか。

【関係者（学校教育部）】

- ・堺市でも、教師に対して、自殺に関連した内容や、子どものSOSを早期にキャッチして、それにどのように対応するのかという研修会は実施している。

【平野委員】

- ・最近、親の職業と子どもの自殺がどのくらい関係するかを、人口動態統計などで調べる機会があった。親が働いている家庭に比べて、親が無職の家庭の子どもは自殺死亡率が10倍くらい高い。NHKの全国調査でも、家の経済的な不安がある子どもは、自殺念慮が高い傾向がある。子どもの自殺の背景にある子どもの貧困とも関連付けて対策を取れば、何らかのよい影響があるのではと思う。
- ・子どもの貧困対策と自殺対策はどの程度連携しているかを教えていただきたい。

【事務局】

- ・市内の自殺対策連絡会に、生活困窮の担当課も参加しており、定期的に意見交換も行っている。市内の連絡会はもちろん、具体的な事業でも連携していきたいと思っている。

【梨谷座長】

- ・子どもの貧困問題は、最近全国的にも取り上げられている。堺市の独自の調査はあるか。

【事務局】

- ・手元では、思い当たるものはなく、確認したい。

【佐藤委員】

- ・貧困に関して、例えば、高校でタイツを履かず素足でミニスカートを履いていると、ファッションだろうと思われることもある。しかし、実際に子どもと話してみると、タイツが破れても買ってもらえないということである。先生はファッションと思ったり、寒くても元気だなと思っていたりするが、実は貧困が隠れていることが多い。そのような生きにくさを抱えている子どもがいることを、もっと知っていただきたい。背景に親の貧困があったり、親の今後が不安に思ったりで、死にたいと思う子どもがある。先ほどの教職員の話にもつながるが、そのようなことも広く知られればよいと思う。

【平野委員】

- ・佐藤委員の話は大事だと思う。子どもがSOSを発信する力を育むことも大事だが、辛い状況の子どもがSOSを発信するのは難しい。大人がそれに気づいて、声かけできるように、そのための環境や知識が必要だと思う。また、SSWやSCの活用も1つであると思う。

【米花委員】

- ・自殺未遂の人とは直接会うことはできるが、コロナ禍で、家族のサポートが手薄になっていることを実感している。自死遺族や依存症の家族のサポートにも目を向けていただきたい。当院は堺市のいのちの応援係につながりことも多いが、家族の中で起こっている問題について、病院では本人には会えるが、家族への支援が難しい。家族支援の取組を考えてほしい。病院でも考えていきたい。

【梨谷座長】

- ・家族の支援で具体的に必要なものはあるか。

【米花委員】

- ・家族が困惑しているときは話を聞いてほしいと思っていると思っている。家族に力がある場合は、自分で話をして整理でき、誰に助けてもらえばよいか分かるが、貧困問題など、家族自体も問題を抱えているとなかなか相談できない。

【梨谷座長】

- ・イメージとしては自殺未遂者として運ばれてきた人の家族ということか。

【米花委員】

- ・コロナ禍になる前は直接来院してもらって、家族の思いも聞いて次を決めることができたが、今は入院時、退院時などの限られた時にしか関わっておらず、家族の思いをどこに相談すればよいか分からなくなっている。そのような問題を病院でも拾えればと思っている。
- ・自殺で亡くなられた遺族は、外来で帰られるだけなので、なかなかその後どうなっているのか分からない。カウンセリングにつながっている人もいると思う。

【関係者（救急部）】

- ・救急の担当で、自傷行為をされた人を病院に搬送している。資料 7「（3）地域における取り組み体制の充実」の「No32」にあるように、いのちの応援係と連携した取組みとして、リーフレットを渡したり、家族への了解がとれたら、担当課へ連絡先を伝えたりするなどしている。これは平成23年11月か約10年間実施している。令和2年に窓口で紹介したのが33人、その中で同意をいただいて関係係につないだのが7人である。過去のものも含めると、今までに276人に相談窓口を紹介し、88人に同意をいただいた。おおそ年間30人に紹介し、つないだのは7人となっている。

【梨谷座長】

- ・救急隊で扱った自傷関連案件はもっと多いと思うが、窓口を紹介した33人の残りの人は、渡せなかったのか、拒否されたのか。

【関係者（救急部）】

- ・リーフレットを渡していないのは、緊急性が高くすぐに医療機関に搬送するケースや、本人や家族が落ち着いておらず説明ができない状態の人が多い。

【事務局】

- ・いのちの相談支援事業の自殺未遂者支援でも、未成年者の受理の割合が、ここ3年間で増えている状態である。
- ・今年度は、途中経過だが、全受理件数66件のうち12.1%が未成年と、平成21年4月から未遂者支援事業を開始して以降、もっとも高い割合になっている。全体の年齢層に比較しても、飛び降りなど致死性の高い方法で自殺を図っている。
- ・いのちの応援係としては、救急隊や救急告示病院、警察、地域などつながることを大事にしている。本人につながる事が難しい場合は、家族とつながり続けることをめざしている。初めての自殺未遂行為や、精神科医療につながった方も未成年ケースの中では多く、重層的な支援を心掛けている。

②令和3年度自殺対策の取り組み状況について

【事務局】

（事務局より資料8を説明）

委員からの意見・質疑

【梨谷座長】

- ・ご質問、ご感想いかがか。

【田邊委員】

- ・相談機関一覧の小冊子が手元になくなったので、できるだけ早く配布いただきたい。
- ・ネグレクトの子どもを見つけるのが重要であると思う。ネグレクトの子どもで自殺した人を検案することが多い。

【事務局】

- ・相談機関一覧の小冊子どのようなところに配布いただいているか。

【田邊委員】

- ・家族に渡したり、警察に託したり、検案書につけたりしている。警察医として、年間で3日に1回くらい検案しており、配布する機会が多い。昨日も自殺の人を検案した。

【事務局】

- ・今年度も余剰分があるのでお渡ししたい。他のところからも配布希望の連絡があるので、希望に応じ

て渡していけたらと思う。

【米花委員】

- ・いのちの相談支援事業実績の中で、新規相談件数が57件、相談実人数が229人となっているが、どのような状況なのか教えていただきたい。

【事務局】

- ・相談実人数229人については、前年度から関わりを持っている人も含めての人数である。なので、相談件数の実人数229人から新規相談件数57件を引いた人数が前年度から関わりのある人数となっている。

【平野委員】

- ・A④の人材育成研修や、B②のゲートキーパー養成研修について、今年度動画配信でされたということであるが、例年の対面で実施した場合と比べて、参加者の集まり具合や内容の理解度などについて、違いがあったら教えていただきたい。

【事務局】

- ・ゲートキーパー養成研修は平成23年度から実施しているが、今年度初めて試行的に動画配信で実施した。堺市の電子申請システムを使ったので、受講者が申し込みをした時間を把握することができた。その結果、74名の申請のうち、約40%が土日祝日、平日の夜に受講していることが分かった。動画配信は、25分と限られた時間の中では、対面型のように十分に伝えきれていないかもしれないが、ゲートキーパーの意識の醸成ということでは一定意義のある取り組みと考えている。
- ・併せてアンケートも実施し、支援機関に所属する方、していない方、過去にゲートキーパー研修に参加したことがある方の3つのカテゴリーで分析した。結果として、支援機関に所属するの方が、支援機関に所属していない方よりも、悩みやストレスを感じたときに、相談することに対するためらいを抱かれる割合が高いということが分かった。
- ・そのため、今後、ゲートキーパー研修のテキストや内容を検討していくにあたり、支援者への支援、ストレスケアなどを盛り込んでいきたいと思う。
- ・研修それぞれの形式にメリットデメリットはあると思うが、コロナが収束しても、対面研修、動画研修、ライブ配信などさまざまな形式での研修を用意していきたい。

【平野委員】

- ・大学でも対面にするか、オンラインするかなどを迷うことがあるが、前向きな話が伺えてよかった。

【佐藤委員】

- ・田邊委員の話を受けてであるが、ネグレクトの子どもをどのように発見するかという点について、学校現

場が一番大事だと痛感している。学校の先生が、何がネグレクトかを知っておくことが大事だと思う。

- ・田邊委員の話が検案書に冊子をつけているということであったが、相談に来られた方が、小冊子をもらったときに、あなたの責任じゃないと言われて救われた、という話があった。小冊子を渡していただけることがありがたく思う。

【事務局】

- ・平野委員から質問いただいた子どもの貧困対策に関して、情報提供である。平成28年度に、生活保護世帯の大学生向けにアンケートを行い、その結果を受けて、中高生向けの未来応援ブックを作成した。貧困の連鎖を防ぐための支援を行っているが、庁内の検討会などで今後も検討していきたい。

③その他

【事務局】

- ・本日の懇話会に関しまして、議事録を作成し、ホームページに掲載する予定となっている。委員の皆様には、議事録ができましたらご報告させていただくので、ご確認いただきたい。
- ・今回の案件に対したくさんのご意見をいただき、感謝申し上げます。
- ・今後はパブリックコメントの実施結果の公表を行った後、3月に計画の策定を行う予定である。
- ・以上で、本日の会議は終了する。

以上